

防災教育

福島県立白河旭高等学校

ホームページ掲載資料

防災教育っておもしろい！高校生が防災教育プログラムを体験

2014年8月1日



福島県立白河旭高等学校の皆さん

青少年赤十字(JRC)加盟校である福島県立白河旭(しらかわあさひ)高等学校で7月22～23日の2日間にわたり、防災教育の模擬授業を実施しました。

同校教諭で、防災教育プログラム検討委員会のメンバーでもある委員の協力により、同校 JRC 委員会と弓道部を中心に、2日間合わせて44人の生徒が参加。

“気づき”を大切にした防災教育プログラムを体験し、命の大切さや防災の重要性について学びました。

今回参加した生徒の多くは、青少年赤十字の活動は未経験。

「参加する前は、避難の仕方などをただ聞くだけの授業だと思っていました」という生徒の皆さんも、
“気づき、考え、実行する”の3つの態度目標が随所に散りばめられた、青少年赤十字ならではの
防災教育プログラムに意欲的に取り組んでいました。



日本中の皆さんに届けたいメッセージ

防災教育プログラムを終えた生徒の皆さんからは、「普段の何気ない生活でも、防災に関する情報はたくさんあることを学びました」、

「東日本大震災が発生した当時、自分は積極的に何もできませんでした。もしも今度災害があった時は、何かできることを見つけられる自分になりたい」という声が上がりました。

本プログラムの開発もいよいよ大詰め。青少年赤十字は一人でも多く未来の被災者を救うため、プログラムと教材の開発により一層力を入れていきます。

2016 9/4 (日) からたち祭

JRC委員会企画

～ カレー本店 Let's 防災カレー体験 ～

9/1からの準備

- ①メインスタッフ打ち合わせ シュミレーション スケジュール等 9/1午後
- ②テント設営 9/2午後③
- 長机、イス借り出し 9/3

- ④看板書き 9/3
- ⑤「募米」協力者名前書き出し(ぎりぎりまで呼びかけ)・100円券作成 9/3
- ⑥買い出し隊出発…予算20,000円 (委員長・会計・メインスタッフ)

品名	個数	予算	購入価格	備考
カレー皿	100			
スプーン	100			
袋(ビニール)	100			
レトルトカレー	100			
ゴム手袋		108		
プラスチックカップ	10	108		
ザル(大)	2～3	持参?		米洗い用
ボウル(大)	2～3	持参?		米洗い用
段ボール		持参		テント前に看板・ゴミ箱
新聞紙(防災)	沢山	持参		煮てる間に防災スリッパ
ゴミ袋(大)				
空ペットボトル	5位?	持参		
やかん	1～2	持参?		

⑦「防災」実演・資料準備

※新聞紙で作るスリッパ

- コンビニ袋で腕を固定(吊る)・コンビニ袋でおむつ
- ペットボトルでシャワー・傷の手当て(水洗いできる)
- サララップで保温・傷あて・ひも・耳栓

⑧防災カレーと一緒に配布するもの準備

- (1) JRC委員長からのご挨拶
- (2) 「非常炊きだし」説明文…長野赤十字のものを活用

⑨募米協力者呼びかけ(前日まで)…9/1 は防災の日

JRC委員会企画

～ カレー本店 Let's 防災カレー体験 ～

当日の動き



①開店準備

1. 米を洗う…調理室をお借りする
2. ざるに入れる
3. ハイゼックス(袋)に油性ペンで名前を書き、
プラスチックコップ(計量)で半合(1/2合)を入れる。
※名前は袋の下の方に書く(輪ゴムで縛る所には書かないでね)
4. やかんで水を A のラインまで入れる。
5. 空気を抜き、輪ゴムでしっかりと口を結ぶ。(ぐるぐる縛ってね)
※これが大切！抜かないと生煮え、膨張して 破れたりします。
6. 大鍋に水を沸騰させておき、沸騰した鍋に、そっと(お湯がはねるので注意ね!)入れる。
7. 約30～45分間煮沸すれば炊きあがりです。
8. 熱々のハイゼックスを引き上げます。(※お湯は捨てません!)…段ボールにビニールを引き中に入れて、ふたをすれば保温が効きます。
9. 余熱にレトルトカレーを 入れて、温めます。
※災害時は最小限のガスを使用です。
10. ご飯は醤油やシーチキンを入れたりすると味ご飯、
その場合はハイゼックスをタテに切るとスティック状になり皿いらず、手を汚さずに温かいご飯が食べれます。

H28 白河旭高等学校JRC委員会の歴史

私は、JRC委員会委員長の

です。この白河旭高校では、左胸に校章ともう一つ丸いバッジをつけています。そのバッジが何であるかわかりますか。それが、「JRC」のバッジでJRCとは**青少年赤十字**、**Junior Red Cross**のことでその頭文字がJRCです。



今から71年前、第2次世界大戦によって**非戦闘員であった本校の先輩方14名が戦争の犠牲となりました。そしてその年、広島・長崎に原爆が投下。日本はポツダム宣言を受諾し、第二次世界大戦は終わりました。**

そして白河の女子校、通称「白女」。この「白女」の始まりには、多くの教訓が盛り込まれました。戦時中とはいえ、国の命令に何の意見、考えを述べる機会もなく、ただ命令のままに行動し、生徒が犠牲になった。そんな悲劇を二度と繰り返さないために、初めて、PTAや生徒会が組織されました。…そして、青少年赤十字への全校生徒加盟。

青少年赤十字加盟については、県内で、非戦闘員である本校生徒14名の犠牲が、地域住民に大変なショックをもって受け止められた、との記述が残されています。

青少年赤十字の精神**人のため、郷土社会のため、国家と世界のために尽くす**ことを目標とし、高校生が自ら**気づき、考え、実行する**精神を養うという考えに賛同しての加盟だったといわれています。この赤十字全校加盟からも分かる、本校生徒のボランティア精神の高まりは、1957年(昭和32年)、本校がJRCアジア大会の会場になるなど、大変大きな成果を生みました。

白河旭高校は今年、102年目を迎えます。その歴史の中でもJRC活動はとても大切に続けられてきました。全校生が加盟している学校は、全国でも大変珍しいことです。

JRCには、『心身を強健にし、人のためと郷土社会のため、国家と世界のために尽くすことを誓います』という目標があります。とても大きな目標ですが、その目標達成のために、私たち高校生が、自ら『気づき・考え・行動する』という心を養うために組織されているのがJRC委員会です。

というと、いったい何をやるのだろう？と思うと思いますが、主に、赤十字社主催の救急法講習や、研修に参加したり、地域を盛り上げる、さまざまなボランティア活動に参加したりしています。昨年は研修やボランティアは1年間で、28行事がありましたが、のべ286名の旭生がボランティアや赤十字の研修に参加しました。今年は、熊本地震の募金活動、サマーショートボランティア、また防災キャンプ研修に参加したり、フィリピン研修、夏休みには「救急法基礎講習」に29名が合格しました。活動は、各クラスのJRC委員を中心に呼びかけ、全校生が活動できます。

H28 白河旭高校 後期 防災避難訓練

2016/11/10

～JRC委員会による プチ・防災の知恵講座～

1. JRC委員会 委員長あいさつ

2. 3年生委員による防災時の知恵デモンストレーション(2人ペア × 6組)

(1) 災害時に役立つ知恵:解説:

★3年生 最強！！JRC委員

☆ペアで五組が前に出て実演する☆

①コンビ二袋で腕を固定: 腕を骨折したかも知れない場合の応急処置

★コンビ二袋(大)の両端をはさみで切ります。そしてそれに腕を乗せて、持ち手の所を首にかけます。簡易の三角巾代わりです。

★この方法を生かして小さいコンビ二袋では赤ちゃんのおむつを作ることできます。

①サランラップ: 腕のけがなどを固定する方法

★サランラップを用いて、腕を固定する方法や、擦り傷なども圧迫固定してばい菌が入らないように使えます。

③新聞紙で作ったスリッパ: 避難所でガラス等から足を守ります。

★新聞紙を数枚、折り込んでいくとスリッパができます！

みなさんも、身近にある物で防災の知恵、試してみましよう。

以上でJRCの防災の知恵・紹介を修了します。ありがとうございました。

みなさん、こんにちは。
JRC委員会委員長の ○○ です。
避難訓練、お疲れ様でした。

私は今年、3月に大阪で、夏には学校で、救急法や防災について学びました。

災害時には、避難のための防災訓練や食糧不足などに対して、非常食や物資の備えることが大切だと思います。

また、日頃から、水を大切に使う方法や、身近にあるものを使って、災害時に使える道具を作る方法を実践できるようにすることも、とても大切だと学びました。

今日は、防災を学ぶ日なので、JRC委員会の3年生の『最強メンバー』で、災害時の救急法の知恵をご紹介したいと思います。

①コンビニ袋で腕を固定： 腕を骨折したかも知れない場合の応急処置

- ★コンビニ袋(大)の両端をはさみで切ります。そしてそれに腕を乗せて、持ち手の所を首にかけます。簡易の三角巾代わりです。
- ★この方法を生かして小さいコンビニ袋では赤ちゃんのおむつを作ることもできます。

②サランラップ： 腕のけがなどを固定する方法

- ★サランラップを用いて、腕を固定する方法や、擦り傷なども圧迫固定してばい菌が入らないように使えます。

③新聞紙で作ったスリッパ： 避難所でガラス等から足を守ります。

- ★新聞紙を数枚、折り込んでいくとスリッパができます！

みなさんも、身近にある物で防災の知恵、試してみましよう。
以上でJRCの防災の知恵・紹介を修了します。ありがとうございました。

ホームルーム活動学習指導案	
<p style="text-align: center;">福島県立白河旭高等学校 普通科 3年5組</p> <p>平成28年11月2日(火) 第5時限 場所：3年5組教室 指導者：〇〇 〇〇</p>	
題材名	「あなたも防災リーダーになろう」 ～ 守るいのち 広める防災 【ミッションを遂行せよ】 ～
学習指導要領上の位置づけ	(3) 社会的な資質の育成 ○集団生活や社会生活の向上のために進んで力を尽くそうとする態度を養う (4) 自主的、実践的な態度の育成 ○自己の役割や責任を進んで遂行し、直面する諸問題への対応や解決の仕方を、集団場面を通じて実践的、体験的に学ぶ
題材の目標	目前にある問題を解決するために、自らの役割を見だし、他者とのコミュニケーションをとりながら協力して取り組むことができる姿勢・態度を養う。
取り上げる言語活動	グループワークを通して、自分には何ができるか「気づき」、そのためにはどう行動し、取り組む必要があるかを「考え」、「実行する」ことを体験的に学ぶ。
単元設定の理由	○教材観 日本赤十字社教材「青少年赤十字防災教育プログラム まもるいのち ひろめるぼうさい」を用いる。日本だけではなく世界でも災害の起きる時代に生きる生徒達が、「自分のいのちを守る」「誰かに手を差しのべる」力をつける学びの時間として本時を設定した。 ○生徒観 3年5組は男子15名、女子25名のクラスである。国立文系を目指す生徒がほとんどで、学習意欲は高い。クラスの雰囲気は明るく、朗らかで、人の話を聞き、質問などにもこたえようとする姿勢がみられる。しかし自分の考えを表現することをためらい、授業のグループ活動で考えを伝えたり、積極的に発言をしたりすることに消極的な生徒も多く、積極性を授業の中で養いたいと考えている。18歳選挙権の実施もあり、政治や社会への関心も高く、将来は社会の中でリーダーとなる生徒が多いであろうことを考えると、防災のリーダーとしての資質を養いたい。 ○指導観 いくつかの教材を組合せたグループワークを行いながら、自己の積極性やコミュニケーションの大切さなどを体験の中で学ばせたい。また一見、楽しいゲームのようでありながら、意味の込められた活動であること、高校生は「守られる」ところから「守る」「支援する」力を持っていることも気づかせたい。また生徒の学習活動は、班での活動、発表の場、自己の振り返り、など多岐にわたる活動になるが、あくまでも生徒中心の学びとなるよう、進めていきたい。そして防災について学ぶことは「いのちを守る」「未来をつくる」「楽しい」ことであることも伝えたい。
指導計画	1時間(本時)
評価計画	評価1(関心・意欲)：活動時のルールを知り、意欲的に取り組もうとしているか。 評価2(知識・理解)：結果ではなく取り組む姿勢・過程が重要であると理解できたか。 評価3(思考・判断)：他者の考えを尊重し自らも積極的な態度が見られたか。

◇本時のねらい（第1時）

- ①グループワークを通して、自分には何ができるか自己の役割に気づき、考え、実行し、積極的にコミュニケーションを取りながら、課題を解決していく過程の大切さについて、体験を通して学ぶ。
 ②高校生は「守られる」ところから「守る」「支援する」力を持っていることも気づく。

◇生徒に示す本時のねらい

- ・班ごとに、与えられた【ミッション】を遂行しよう。
- ・目の前にある課題をどう解決していくか、積極的に自己の役割を見つけ、取り組もう。

◇指導過程

段階	学習内容・活動	時間 (分)	◇指導上の留意点 ◆評価規準
導入	1. 本時のねらいを理解する 本時はルールの中でいくつかの【ミッション】を遂行してもらうことを話す。	3	◇「ルール」「ミッション」「班での活動」というキーワードで、生徒の関心を高める。
展開	2. コミュニケーション力を学ぶ (1) ミッション1 「ペーパータワーを作成しよう」 (2) ルールを理解し、班で協力してタワーを協力して作成、計測を依頼する。 (3) このミッションの意味を理解する。 ・積極的に課題に取り組もうとしたか。 ・自分の意見を言えたか。 ・周囲の意見を聞こうとしたか。 ・自分のできる役割を行おうとしたか。	2 10	◇ミッション1のルールを説明し班ごとに協力して取り組む姿勢を促す。 ◆目の前にある課題に関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとしている（意欲・態度） ◇このミッションの込められた意味が分かるように話す。 ◆解説を聞き、実は結果ではなくプロセスが大切であること、取組み協力する姿勢が災害時は最も大切であるということが理解できたか。（知識・理解）
	3. 災害時のコミュニケーション力を学ぶ (1) ミッション2 「与えられたミッションに取り組もう」 ※2班ごとに3種類の課題に取り組む ①「困っている人に手を差しのべよう」 ②「避難所のストレスをへらそう」 ③ワークシート 『災害前・後』の自分の暮らしを考えよう」	5 15	◇6つの班に1つずつ課題（ミッション）を渡し、班ごとに話し合いを指示する。（フォトセッション・グループワーク） ◇班ごとに課題があり、それについて話し合い、発表することを話す。 ◆自分も相手も大切に表現方法が理解できたか。（知識・理解）
	4. 「防災力」を広める (1) ミッション3 「話合ったことを伝えよう」 班ごとに発表（挙手の順・各1分）	10	◇災害に関し想像力を働かせ考えさせる。 ◆他者の考えを尊重する態度が見られたか。（思考・判断） ◇それぞれが真剣に話し合った事を共有することの大切さも伝える。
	5 本時の活動を振り返る。	5	◇災害時にまず自分のいのちを守ること、それができれば高校生は多くの人に手を差しのべる力を持っていると伝える。
まとめ			

資料	日本赤十字社教材『まもるいのち ひろめるぼうさい』 福島県教育委員会発行 防災教育指導資料 第3版 P6 P8 P89
----	--